

宇都宮大学国際学部国際キャリア実習のためのスリランカ事前調査 —学術交流提携先ペラデニヤ大学訪問視察報告—

重田 康博 ・ 栗原 俊輔

1 はじめに

2014年8月31日から9月6日にかけて、国際学部国際キャリア実習のための事前調査のため、国際学部の重田康博教員と栗原俊輔教員の2名はスリランカを訪問した。

今回の訪問の目的は、2つある。第一は、国際学部の専門科目である国際キャリア実習のインターンシップ先の開拓である。第二は、国際学部部局間学術協定の提携先であるペラデニヤ大学への表敬訪問である。本視察報告は、その内サルボダヤ・シュラマダーナ運動（以下サルボダヤ運動）を訪問した時のインタビュー調査、ペラデニヤ大学表敬訪問をまとめたものである。前者を重田が、後者を栗原が執筆を担当する。

まず、国際キャリア実習の事前調査についてである。本実習は、国際学部学生のための海外・国内インターンシップ授業科目であるが、本年度海外インターンシップ実施候補先として、JICA スリランカ事務所、スリランカの NGO サルボダヤ・シュラマダーナ運動（以下サルボダヤ運動）を訪問した。

JICA コロンボ事務所では、同事務所の天田所長と相談し、当国際学部が来年3月に行う国際キャリア実習海外インターンシップの研修生を受け入れる可能性について協議を行い、個別に宇都宮大学と連携協定を結び、本学生を受け入れる方向で検討した。今後は国際学部側の派遣体制を整えることになった。

次に、サルボダヤ運動の視察について述べて

いく。

2 サルボダヤ運動の視察

筆者のサルボダヤ運動調査は、昨年に続き今回4回目となり、1回目と2回目は教育学部の陣内雄次教員、3回目は農学部の福村一成教員が同行していた。

今回のサルボダヤ運動調査訪問先は以下の通りである。

サルボダヤ運動本部（創設者・代表 A.T. アリヤトネ氏および専務理事ビンヤ・アリヤラトネ氏、女性プログラム担当者から女性支援プロジェクト、プロジェクト部長、国際部長）、SEEDS（Sarvodaya Economic Enterprises Development Services Limited サルボダヤ経済企業開発サービス社）本部のマイクロクレジット “DESSHODA（Development Finance Company Limited 開発金融商会）” と SEEDS の各担当者から話を聞くことができた。また、サルボダヤ・キャンディ地区センター、キャンディ地区センター管轄のコーディネーター、同地区のゴダレ村の女性プロジェクト担当者から話を聞くことができた。

(1) インターンシップについて

サルボダヤへの学生のインターンシップについては、バンドゥーラ国際部長と協議を行い、本年度も宇都宮大学から学生の研究計画を提出して受け入れについて検討することになった。実は2年目にもインターンシップ先として、国際学部の学生2名をサルボダヤ運動本

部に受け入れてもらったことがある。その時は学生が村のシュラマダーナキャンプに参加したり、本部の平和教育センターの図書整理、適正技術のための機材づくり、保育園や孤児院での子どものお世話などでインターンシップを行った。前回は学生の英語力や海外経験の少なさの課題などがあったが、今後学生をサルボダヤ運動に派遣する際それらの課題を考慮に入れる必要がある。学生に英語力と海外経験がなければ、シンハリ語と英語力が必要なサルボダヤ運動でインターンシップを行うことはむずかしい。



(サルボダヤ運動キャンディ地区ゴダタレ村での記念撮影)

(2) サルボダヤ運動の主なプログラム

次に今回調査を行ったサルボダヤ運動の主なプログラムについて、以下に述べていく。

最初に、サルボダヤ運動によるマイクロ・ファイナンス（小規模融資、サルボダヤ銀行）プログラムについてである。現在そのプログラムは、DESSHODA と SEED として行われている。サルボダヤの SEED は、大きな変化の時期にあるようだ。従来サルボダヤは、住民へのマイクロ・ファイナンスを行う場合 SEED が融資を行っていたが、政府の民営化の方針の流れの中で、2013 年度以降 DESSHODA は SEED の事業を引き継ぐ形で地域開発銀行となり、国内 30 の支店と 32 の顧客サービスセンターによっ

て事業を展開するようになった。主な事業は、貯蓄、指定預金、住宅ローン、期間ローン、マイクロファイナンス、緊急信用ローンである。

これに伴い SEED はサルボダヤ運動の組織内でサルボダヤ支援者に対し社会開発を進めるための融資資金として活用されることになり、借り手である住民の貯蓄を通じてグループへの融資を行うことになった。また、SEED は、JICA も円借入を融資している中央銀行からの融資によって人材育成プログラムを行い、社会開発リーダーシップトレーニング、起業化リーダーシップトレーニング、職業訓練トレーニングを行っている。総資金は 52 百万ルピア、対象はサルボダヤ支援者を中心に 52 地域、2 万 6 千人の受益者であり、女性への融資なども行っている。

また、栗原教員、臨地研究調査のためにスリランカに来ていた宇都宮大学大学院生でベトナムからの留学生 Nguyen Viet Quynh Chi（チー）さんと筆者の 3 人で、サルボダヤ運動の女性社会プログラムの視察のため、9 月 14 日キャンディ地区センター管轄にあるゴダタレ村を訪問した。そこで、キャンディ県地区コーディネーター（ゴダタレ村）のシリヤさん、ゴダタレ村女性グループのリーダーのマニケさんにインタビューした。シリヤさんのお話では、サルボダヤ運動ではキャンディ県 20 郡に 2 人のコーディネーターがいて、その 2 人が 10 郡に分けて担当している。彼女の案内でキャンディから車で 1 時間半程度かけて到着したゴダタレ村は、人口約 600 人、175 世帯が住んでいる。この村の女性社会プログラムはサルボダヤ運動の資金的支援によって 2009 年から開始され、現在まで SEED プログラムによる女性への融資や女性のための社会開発プロジェクトを進めている。この村では 60 名～70 名がプログラムに参加しているという。具体的には、子どものための保育園提供、裁縫、お花（造花）など職業訓練の

ための講義を行っている。その他、公衆衛生検査官を雇いマラリア・デング熱など感染症予防キャンペーンや世界子どもの日のキャンペーンを行っている。

最後に、帰国前の9月5日に会った、ビンヤ・アリヤラトネ専務理事は、今後新しく国内3カ所でエコ・ツーリズム・プロジェクトを行いたいので、宇大側にも参加して欲しいということであった。海外インターンシップについては、バンドゥーラ国際部長と話し、来年3月に国際学部が行う国際キャリア実習海外インターンシップの研修生を国際部に派遣する方向で準備することになった。



(サルボダヤ運動の創設者 A.T. アリヤラトネ氏と記念撮影、左から重田教員、栗原教員、チーさん)

3 ペラデニヤ大学訪問

宇都宮大学国際学部は、スリランカ国立ペラデニヤ大学と学術交流協定を結ぶべく、3年ほど前から協議を重ね、今回協定締結の運びとなった。

ペラデニヤ大学は、1942年、イギリス植民地時代にセイロン大学としてコロomboに設立。その後中央州キャンディ市郊外のペラデニヤに移転し、1978年に現在のペラデニヤ大学となった、歴史ある大学である。スリランカの大学(全18校)はすべて国立大学であるが、その中でもコロombo大学と双璧をなすトッ

プの大学であり、東京ドーム150個分の広大な面積を持ち、医学部、歯学部、工学部(6学科)、農学部(8学科)、理学部(8学科)、人文学部(Faculty of Arts)、獣医学部、医療技術学部(Faculty of Allied Health Sciences)から成り、学生11,000人(学部生9,600人、大学院生1,400人)、教職員2,700人を抱える総合大学である。



(ペラデニヤ大学。イギリス植民地時代からのコロニアルな建物が東京ドーム150個分の広大な敷地に広がる)

2014年度においては、国際学部重田教員および栗原教員が同校を訪問し、学術交流締結に向けての折衝・交渉を行った。

2014年9月、重田教員と栗原教員はペラデニヤ大学を訪問。Vice Chancellorのアトゥラ・セナラトナ氏、ナンダ・グナワルダナ氏(Director, International Research Center)、ミサッカ・ウイジャヤグナワルダナ氏(Director, Sri Lanka-Japan Study Center)と面談し、今後の協力の可能性について協議し、学術協定締結に向けて具体的に動き出すことを双方合意した。また、この時に年末の国際会議(後述)の招待もいただく。



(大学構内アンフィシアターを学生に案内してもらおう重田教員)

面談後にはペラデニヤ大学学生との面談をし、キャンパスライフについて、授業についてなど言葉を交わし、その後彼らに学内を案内してもらおう。イギリス植民地時代に端を発する大学だけに、その広大な敷地にコロニアル建築の建物が広がり、とても緑の多いキャンパスであることを実感した。

2014年12月には、栗原教員がペラデニヤ大学を訪問。9月の訪問後に学術交流協定に関する覚書等の作成がされ、この12月の訪問までの間に、両大学間において折衝・調整がなされ、学術交流提携調印に向けて準備を進めてきたが、12月16日にペラデニヤ大学にて無事に協定書に調印の運びとなった。



(調印後の記念撮影。左からグナワルダナ氏、セナラトナ氏、栗原教員、ウィジャヤグナワルダナ氏)

また、12月のペラデニヤ大学訪問の際には、学術協定調印前日に「Sri Lanka - Japan Collaborative Research」国際会議に参加した。これは9月の訪問の際に招待をうけたもので、今年で2回目となるペラデニヤ大学主催による、日本大使館の協賛および国際協力機構（JICA）の協力も取り付けて開催されている国際会議である。



(SLJCR 開会セレモニーの様子。日本大使館公使、JICA スリランカ事務所長も参加)

日本、スリランカ以外にも SAARC 諸国（南アジア地域協力連合）である、バングラデシュなどからも研究者が参加し、スリランカおよび南アジアに関連する分野での発表を行った。

スリランカは歴史的にも日本とのつながりが意外に深いですが、日本国内ではあまり知られていない。国民性も勤勉で、人口で7割を占めるシンハラ人は仏教徒でもあり、日本との宗教的・文化的共通点も多い。

これを機に、南アジアの奥の深さ、国際協力の現場での体験を一人でも多くの宇大生に経験してもらいたいと思う。

(参考資料)

スリランカ スケジュール

出張者 : 国際学部重田康博、栗原俊輔

出張期間 : 2014年9月1日～9月6日

出張内容 : 「宇都宮大学国際学部グローバル人材育成のためのアジア諸国との交流強化事業として、①ペラデニヤ大学との学部間学術協定のための交渉、②国際学部国際キャリア実習のインターンシップ先開拓、のために実施された。学生の国際インターンシップ先として、スリランカのNGO「サルボダヤ運動」、JICAスリランカ事務所等を訪問した。

9月1日(月) ● JICAスリランカ事務所

天田聖所長、阿部裕之次長、日高弘次長、島野事務員、浅井誠事務員、面会
Fare Trade Store selyn 訪問
odel 訪問

9月2日(火) ● Sarvodaya Shramadana Movement(Inc.) サルボダヤ本部調査

A.T. Ariyaratne Foundr-President 創設者・代表アリヤトネ氏訪問
Bandura Senadeera – Director, International Division
Wimala Ranatunga - Project Coordinator for Women’s Programme
Ravindra S. Ariyawickama - Director ,Project

● SEEDS 本部 スタッフからのマイクロクレジット等のレクチャー

・ DESSHODA Development Finance Company Limited
R Rajeev Kumar - Chief Manager-Human Resources

・ SEEDS

Priyan Caldera - Business Development Manager

9月3日(水) サルボダヤ本部出発—キャンディ

●ペラデニヤ大学 University of Peradeniya

・ Department of Civil Engineering

Dr.Gemunu Herath -Senior Lecturer

Dr.Shameen Jinadasa – Senior Lecture

Misako Oyama – Project Coordinator JICA Expert

●サルボダヤ・キャンディ地区センター

Keerthi Bandara Mahagedara-Provincial Coodinator

9月4日(木) ●ペラデニヤ大学 University of Peradeniya

Prof. Atula Senaratne Vice-Cancellr

Prof. Missaka Wijayagunawardane Department of Animal Science,

Director, Sri Lanka-Japan Study Centre

Dr.Nanda Gunawardhana Research Centre

副学長等と学部間協定について意見交換し、協定書および学生覚書の原案を基に
双方で検討することになった。

その他、Wijaya Jayatilaka-Development Sociologist 等に挨拶

- サルボダヤ・キャンディ地区センター（キャンディ 20 県を見ている）

Keerthi Bandara Mahagedara-Provincial Coordinator

Sriya（キャンディ 20 県の内 10 郡の Division Coordinator で、Godathale Village を見ている、村は最少単位で 200 人が住んでいる）

人口約 600 人の内 200 世帯の内、175 世帯が Sarvodaya Society のメンバーとなっている。

Godathale Village 到着

Manike - Godathale Village Women's Coordinator 2009 年から Women Project 開始、現在女性 20 人が参加、Kandy 県は合計 60 人参加

9月5日（金）キャンディーモラトワ

- サルボダ本部

Dr. Vinya Ariyaratne – General Secretary

Bandura Senadeera – Director, International Division